



Marshall

私とギター・アンプ

Kelly SIMONZ

エレキ・ギターを話題にする際、どんな木材で、どんなピックアップを搭載したエレキ・ギターを、どこ、どんなエフェクターをどのように接続して、どんなシールド・ケーブルを使ってプレイしているか...とマニアックな話になることが多々あります。しかし、忘れてはならないのが、実はギター・アンプなのです。エレキ・ギターのサウンドの大半はギター・アンプで決まると言っても過言ではありません。ここでは、プロのギタリストの皆さんに、ギター・アンプに関する思い入れやエピソードをお聞きしていきます。初回は盛んなライブ活動やクリニックなどで全国各地を駆け巡られている、Kelly SIMONZさんです。

ギター・アンプとの出会いは？

自分の出したい音が最初からはっきりとしていた

私が中高生の頃はアンプといえばローランドかヤマハ、フェンダーのトランジスタ・ミニ・アンプぐらいしかなくて、今のようにあらゆるメーカーのトランジスタ・ミニ・アンプは存在していませんでした。プロが使用する機材は手に届かないものばかりでした。

とりあえず自宅には、兄が購入していたローランドのキーボードもつなげられるようなアンプがあったので、それにディストーション・ペダルなどをつないで歪ませて弾いていましたが、カリカリでCD(当時はレコード)の音とは程遠く、プロへの道は険しいと思っていました(笑)。

高校生になってスタジオへ毎週通うようになると、フェンダーのツインリバーやマーシャルのJCM800などがあり、初めてプロが出している音に近い感覚が得られました。もちろん演奏は違いましたが(笑) 音の感覚と言いますが、音を体感する雰囲気を得られたので、自宅練習とスタジオでのバンド練習の目的がはっきりと分けられたように思います。

また、その頃になるとマーシャルがトランジスタ・アンプを発売したので、早速それを買って自宅でもマーシャルの音に慣れる練習をしました。チューブ・アンプではなくてもやはりマーシャルの音がしていたほか、私はとにかく自分の好きなアーティストが明確だっただけにその音に合わせるべく、日々練習するという感じでした。目標がはっきりとしていたぶん、アンプを決めるのも早かったと思います。

今のシステムにたどり着くまで

どんな環境でも自分の音を出せることが基準

私は高校生の頃からマーシャルを使っていたので、音に関する目標ははっきりとしていましたが、憧れのオールドマーシャルを手に入れるには、なかなか金銭的に余裕がなくて、初めてそれを使ったのは渡米してからです。日本では買えなかった代物が半額ぐらいか、それ以下の値段でたくさん市場に出回っていたので、とりあえず100台ぐらいは試したと思います(笑)。

狙いはもちろんマイケル・シェンカーやイングヴェイ・マルムスティーンが使用していた50Wの1987(JTM50MKII)でした。

当時のマーシャルはかなり当たり外れがあったので(笑) ものすごく歪むものやカリカリのものまで様々でしたが、その当時から決まっているブースターを1個かまして音作りするスタイルに合う歪みとサステインのバランスが良いものをいくつか購入しました。それからいろいろな場所でライブをするようになって、

との間にできるだけ「抵抗」をかまさない方が良く、と考えているからです。アナログ・ディレイのドライアウトをオールドマーシャルの1959につないでメインとし、ウェットアウトを1987へ送ってキャビネットを2台鳴らしています。曲によってディレイの音量やタイムをその都度、変えています。その理由はまず、オールドマーシャルにはセンドリターンがないことと、インプット前にディレイをつなぐと原音に混ぜてあげが悪くなるからです。

「アンプ選びはギター以上に自分の音が明確に決まる」ということを肝に銘じるべし！

「50Wでは足りない」と思い、100Wの1959(Super Lead100)を新たに購入しました。

オールドマーシャルの魅力は、やはり「シンプル・イズ・ベスト」ということに尽きます。「これだけで良い音が出せたら、どんな機材でも絶対に良い音が出せる」という自信を持ってほかに、現存するアンプのほぼすべてはフェンダーやマーシャルの音がベースになっているのですから、やはり原点を極めるのが大切だと考えています。

日本に戻ってきてからもいろいろなアンプを試しました。しかし、サポート・ミュージシャンのような仕事をしているわけではなく、音は自分のトーンがあれば良いわけなので、結局は「マーシャル」ということになりました。もちろんスタジオにあるJCM2000やJVMとは若干違いますが、それでもマーシャルは比較的どこにでもあるアンプなので、自分の音が決まっていれば、どこでもそれに近い音が出せるというも強みだと思います。

今のシステムを教えてください

どんな音量でもしっかりとコントロールできるようにする

現在はライブのセットもかなりシンプルにしています。なぜならギター本来の良さを発揮するにはアンプ

サウンド・セッティングは「クランチ」と言われる、歪み過ぎないジャックとした、いわゆるマーシャルならではのトーンを作って、オリジナル・ブースターを使い分けています。オールドマーシャルのトーン・コ



ントロールは音量が上がれば上がるほど、利いているかわからないくらいなので(笑)。基本フル10から会場によってベースやトレブルを下げ、ミドルとプレゼンスはほぼ8~10に固定しています。ここはギタリストにとって一番おいしい領域です。

基本の音を決めていれば、あとは手元でボリューム・コントロールをしたり、ピッキングタッチを変えたりなど、ギターと自らのテクニックを使って音を変化させることが多いです。基本のクランチ・トーンがプレイそのもののニュアンスをはっきりと出してくれるので、言い換えると、プレイヤーの実力が問われるところですが、だからこそ挑戦しがいがあるセッティングだと思っています。

自宅では、プリプロに関してはPCのアンプ・シミュレーターを使用していますが、やはり練習にアンプは必須です。音量がどれだけ小さくてもヘッドホンでモニタリングするのではなく、「肌」で感じるのが大切だと思っています。自宅で使用しているアンプはマーシャルのMG2CFXという2Wのもので、2Wといってもかなりの音量が出るので、ボリュームは1前後ですね...(笑)。それでも十分に体感できます。

基本はシンプルな設定なので、トレブルとベースは10にして、少しディレイをかけています。気分的なものもありますから...(笑)。歪みはストレートの場合、私はストラトがほとんどなので、MODEもゲインもMAX、ブースターをかます前提であればブレキシトのようなクランチにするためにMODEは3くらいです。とにかくエレキ・ギターは生音で弾く楽器ではないので、アンプを通して、「アンプから出るトーンをいかにコントロールするか？」という練習が絶対に必要です。どんなに小さなものでも良いので、とにかく自宅でもアンプを鳴らした方が良くと思います。

軽音楽部員への一言コメントを

個人練習とバンド練習をバランス良く行うこと

私が高校生の頃は軽音楽部のある学校が少なく、リハーサル・スタジオも近所にはほとんどありませんでした。しかし、アンサンブル(合奏)においては自らの役割をしっかりと把握することが何よりも大切なので、個人練習とバンド練習をうまく両立するのが上達への近道だと思います。エレキ・ギターは特にドラムやベースというリズム隊の音が重なると普段聴いている音とはかなり違って聴こえます。もちろんすべての楽器にも同じことが言えますが、だからといって音量をただ上げるのではなく、バンドの中での役割をしっかりと把握して、音の出し引きをコントロールすることを身に付けてもらいたいです。これは自宅の個人練習では得られないことなので、それを理解した上で自宅練習をするのでは、かなり違いがあります。

また、どれだけテクノロジーが発達しても人間が耳で音を聴く限りは「アンプ」が必要です。特に大型アンプを使いこなすにはそれなりの経験が必要になるので、学校にそういったアンプがあれば、ぜひ積極的に使用して慣れておくことが大切だと思います。学校になれば、今の時代はリハーサル・スタジオに必ずあると思うので、そういった場所である程度の音量を出してアンサンブルのトレーニングをしておくと、いろいろな場所でのライブにも役立つと思います。何より最初は「自分の音が大きい」というだけで恐怖感がありますからね...(笑)。それを克服すれば、もう楽しいことしかありません。ぜひ音量に左右されない、どんな環境でも自分の音が出せるプレイヤーを目指して頑張ってください。



Kelly SIMONZ
14歳の時、兄の影響でギターを始める。高校卒業後、単身渡米してハリウッドのMIに入学。その後、東海岸に活動拠点を移し、24歳までアメリカで音楽活動を行う。以降、数々のジャンルを超えた作品のリリースとライブ活動で、その卓越した音楽センスと驚異的なギター・テクニックを披露している。
<http://www.kellysimonz.com/>

これがKelly SIMONZのセッティングだ！



基本的にミドルのつまみはほぼフルの状態ですが、会場やステージの環境によってバスとトレブルを増減し、微調整を行っています



MG2CFXはマーシャルの中で最も小さいアンプですが、十分に自宅で使用します。エフェクトもかけられるので、ブースター以外には必要ありません。また、練習にアンプは必須です。ヘッドホンを使うのではなく、「肌」で感じるのが大切だと考えています



このアンプにはノブが4つしかありませんが、それぞれが2種類の役割を果たすコントロールになっており、バス/トレブルともにフル、ブースターを使用する場合はモード3、ゲインはフルにしています。自宅なので、音量は0.5~1程度で使用しています